



洋書輸入協会会報

Vol. 31 No. 8 (通巻363号) 1997年8月

JBIA ビアパーティ'97

恒例となった JBIA ビアパーティが、去る7月18日、新宿南口ホテル サンルート「芙蓉の間」で開催されました。今年で5回目を迎え、49社197名（うち女性39名）の参加と少し増え、盛況でした。

パーティはゲーテ書房村山さんの司会進行で始まりしました。まず文化厚生委員長トッパンの関野さんが、多数の参加への謝意を述べられ、「料理や飲み物を沢山用意しています、又、ビンゴゲームでは多数の景品を用意しています、楽しんでいただきたい」旨の開会の挨拶がありました。今年は理事長の丸善鈴木社長も参加され、ご挨拶いただきました。5月の箱根での総会後のゴルフの時に、東亜ブック鶴さんにビアパーティへの参加を要請され、慎重に考え、検討し、参加したとその経緯を披露され、会場は和やかな雰囲気になりました。「秋口に、特別委員会で、ビジネスに益になる事を提案したい、小さなプロジェクトで小さな事をやりついで行きたい」旨の貴重なスピーチに拍手が湧きました。

その後、理事長代行丸善の戎井さんの力強い乾杯の音頭でパーティはいよいよ佳境に入って行きました。

料理に箸を伸ばし、ビールで喉を潤し、新たな知己を得、旧交を温め談笑に時を忘れていた間にも、ビンゴゲームが始まりました。選り抜きの美女2名のビンゴガールを伴って、ロングマンの川原さんの名司会で、パーティも一層華やかで賑やかなものになりました。丸善の好意に依るものも加わって盛沢山の景品が揃えられ、「ビンゴ」の歓声とともに賞品を受取る笑顔が増え拍手が湧きました。

パーティは日賀の杉山さんの中メで、楽しく賑やかなうちに、お開きとなりました。

今年もトッパンの関野さん、東亜ブック鶴さんをはじめ、文化厚生委員の皆さんが多大な尽力をされた事に感謝しつつ、会場を後にしました。 (HN 記)



理事長初参加のご挨拶

目次

JBIA ビアパーティ'97	1	うちの会社	5	出版文化史追遥—西から東—(19) ...	7
海外ニュース	2	広告掲載料等のご案内	5	広 告	8
R. H. Blyth 先生の英文学講義と私	3	日本医学図書館協会のご紹介	6		



文化厚生委員長挨拶



当たらないビンゴも沢山用意してございます……

(文化厚生委員会提供)

海外ニュース

著作権システムの将来

来年1月22日より24日までの日程で東京で聞かれる第4回国際著作権会議は、THE INTERNATIONAL PUBLISHERS ASSOCIATION と THE JAPAN BOOK PUBLISHERS ASSOCIATION による共同開催である。東京での会議の焦点は、デジタル時代における著作権保護と支払管理システム、そして商品の生産者である出版社の重要な位置になるだろう。書籍販売および著作権にかかわる国際的なグループ300社ほどが参加する予定であり、この会議はまたヨーロッパ以外の地で開かれる最初の IPA 会議で、議事の一つはアジア地域における出版事情についてのものとなる予定だ。

おりしも、IPA 及び STM (THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF SCIENTIFIC, TECHNICAL AND MEDICAL PUBLISHERS) は、

Digital Object Identifier system (DOI=デジタル商品認識システム) の提案を指示する旨の共同声明を発表した。このシステムは、ネットワーク上で伝達される著作権情報を認識するためのものである。DOI は元々は THE ASSOCIATION OF AMERICAN PUBLISHERS により想起されたものであるが、今年初め IPA と STM によりグループの意見として採択されたのである。

IPA 及び STM の声明で、このシステムが現在も開発途上であることが明らかにされたが、10月15日、フランクフルト・ブックフェアの場で (HALL 4, EUROPEAN ROOM, 9:15 am~11:15 am) 初めて公表される予定である。参加申し込み (無料) は9月1日までにスイスの IPA (FAX: 41-22-347-5717) もしくはオランダの STM (FAX: 31-33-465-6538) 宛に行う。

【PUBLISHE WEEKLY/AUGUST 4, 1997 より】

R. H. Blyth 先生の「英文学講義」と私

島岡 丘

英文学の研究で私が師事した先生は中でも福原麟太郎先生と R. H. Blyth 先生である。福原先生は卒業論文を書く際、先ず作品を正確に読むことを強調され、次にその作家の批評論文にすべて目を通し、最後に自分の考えを出すように言われた。その間いろいろ適切なお指導を受け、卒業後も何かとお世話になった。Blyth 先生は毎週土曜日の午後になると、自転車で学習院大学の教員宿舎から来られ、2 科目 4 時間の英文学講義をされた。私は 1 年 8 単位ずつ取得し 3 年間で計 24 単位をいただいた。

Blyth 先生の講義はテキストを読解するだけでなく、先生ご自身、テキストに対してどのような意見や感想をもっているかをわれわれ学生たちのために分かりやすくイギリス的なユーモアを交えながら語っていただいた。

大学 4 年の時卒業論文を終えて先生のお宅を訪れ、先生の講義録を出版したいと申し出たが、先生ご自身の加筆修正のお気持ちや出版社の意向などがあり、今日に至っている。先生の講義で今でも思い起こすと、英文学をローカル的な捉え方でなく、古今東西の文化の大きなうねりの中で捉えられており、専門的な文学研究がともすれば失いがちのいわば巨視的な見方を教わったように思う。先生の講義の中から特に印象的だったことをまとめておきたい。筆者の講義ノートを長年大事に保管していただいた宗片邦義氏に深く御礼申し上げたい。引っ越しを数回もした私のところに置いてあればおそらく紛失してしまったであろう。

1 東洋文化と西洋文化 (Eastern and Western Culture)

文化の発祥はインドの文化、つまり、直感の最高の形 (the sublime form of intuition) である Hindu mysticism であり、東は仏教を通して千年かけて中国、朝鮮、日本へ渡り、西は二千年かけてヨーロッパからアメリカに渡ったと考える。人間の生きる目的は何か。それは人間の内面を知ることであり、その方法は美術、音楽、詩など、広義の宗教を通して得られる。アメリカの Emerson や Thoreau などの思想は transcendentalism であるが、これは古代インドの文化に通じる。R. L. Stevenson の *Treasure Island* と D. Defoe の *Robinson Crusoe* とを比較してみると後者のほうがは

るかに人間の内面を描き出している。Blyth 先生ご自身も *Robinson Crusoe* を 50 回以上読まれたそうである。

2 世界観—神と自然と人間

英語圏の伝統的な考え方では、神の概念から全て始まっていた。神は天地を創造したあと、そのまま放置した。天地すなわち自然と生き物はその後独自に歩むことになったが、そこには良い面と悪い面がある。良い面はやさしく美しい自然として日本人に受け入れられ、悪い面は *Othello* に出ている登場人物 Iago などに具現化している。日本人の感覚では、自然の中に人間的な面と人間を越えた面とを見ているようだ。地震や台風は後者の例である。神の存在は飾り (ornament) の扱いを受けているのではないか、というのが Blyth 先生の意見であった。

ただし、自然のすべてを受け入れているのは禅宗であり、この態度はローマン派詩人、W. Wordsworth の詩、*Tintern Abbey* の "All that I behold is full of blessings" の一行に読みとることができる。

3 詩の特徴

詩の特質は "seem" にある。良い詩は簡単なことばで書かれている場合でも、理解するのは必ずしも容易ではない。最も良い詩というのは詩を越えた詩 (The best poetry is poetry beyond poetry) である。芭蕉と Wordsworth を較べると、前者は詩の達人 (master) であるのに対し、後者は詩の親切な案内役 (kind teacher) である。

4 人生観と作家

人生観は場所と時間に影響される。D. H. Lawrence が述べた "the spirit of the place always triumphs." は正しいと思う。また、W. Hazlitt のエッセイに注目したい。個人の好みや原則に左右されずに、人生をじっと見据えて (steadily) 書かれている。

世の中は暗黒の世界、感情のはげしい時代から、合理的な節度のある世界に進んでいる。ただし、完全無欠な時代や場所には詩的な豊かさはない。詩人 Thoreau の "The tree reflected on the water is much more beautiful than the real tree." あるいは、Keats の詩

Heard music is sweet,

But unheard music is sweeter.

などには詩的な心情を描写している。Blyth 先生はさらに、"A mirror is the soul of a woman." とユーモ

ラスにつけ加えられた。

5 自然とローマン派詩人

Blyth 先生は次の 2 行を比較して Wordsworth の詩に見られる animism と鋭い直感を評価された。

'Tis my faith that every flower enjoys the air it breathes. (Wordsworth)

Nature seems to bear rather than rejoice. (Arnold)

また、自然の風景の中で、沈みゆく太陽と日の出とを比較して、次のように言われた。

"I prefer the setting sun, because there we see eternity, melancholy, and something mystical. The setting sun is more poetical than the rising sun."

最後に、Old men are more poetical than young men とつけ加えられた。

6 詩才の育成と教育

Blyth 先生にとって、教育は個人のレベルで行われるべきであるという主張をもっておられた。今はコミュニケーションを重視する傾向が強いが、文化と教育との間に一線を画しておられ、前者は wisdom であり、後者は knowledge であるとされ、wisdom は "incommunicable" であり、このことを知ることとも wisdom であるとされた。

外国語教育をどうすればよいかという私の質問に対して、禅宗の考え方を取り入れたらどうかと語られた。禅宗は教えることよりは学習者自身で悟ることが基本であり、Walk without walking, teach without teaching と言われた。これは学習者に自己発見させるということではないかと思う。

また、指導法などは存在せず、Wordsworth が詩才を磨き得たのは妹 Dorothy の生き方や感性そのものを受け入れたからであることを次の詩が語っている。

She gave me eyes, she gave me ears;
And humble cares, and delicate fears;
A heart, the fountain of sweet tears;
And love, and thought and joy.

学生は気の毒ながら試験を受けなければならないが、Blyth 先生は二つのことしか問わなかった。それは What the author says (客観的な批評) と What you think of what the author says (主観的な批評) であった。時には作品の一部を引用し、それを書いた作者

は誰かという問題もあった。

7 愛について

東洋の自然に対する愛は直接的であるが、西洋の自然に対する愛は人を介した愛である。Wordsworth が英国を愛したのは妹 Dorothy への愛を介している。If you love me, love my dog. とユーモラスに語られた。

詩人は自然への愛と人間に対する愛を区別する傾向が強い。Thoreau は自然への愛を選んだが、Wordsworth は若いときは自然を、円熟してから人間を愛した。芭蕉と白楽天は自然と人間を共に愛したが、両立させることは困難でまた希 (difficult and uncommon) であるとされ、次の Thoreau の一節を引用された。

"The study of nature (incl. the child's & animal's psychology) is a great help towards the understanding of human nature."

われわれがキョトンとしているとすかさず、"The prime minister should be a professor of anthropology." と言って学生たちを笑わせた。

異性に対する愛についての講義は興味深かった。講義ノートには次のようになっていた。

According to D. H. Lawrence, women are natural, spontaneous, and act instinctively. To know the mind of a woman is the end in hating her.

また、われわれ男子学生たちへの警告として次のように言われた。

Women are dangerous creatures. A woman never never forgives.

We should not love a particular woman, but the idea of a woman.

At any rate love is no receiving and no taking.

8 英文学と古典

真の古典とは感情、思想、表現 (balance of emotion, thought and expression) がバランスが取れていることをである。ローマン主義は感情に片寄っているところがある。それは "spontaneous overflow of powerful feelings" の表現に見られる。一方、疑似古典主義は感情が表れていないというところにある。Shakespeare の古典的な面は次のようなところである。

"The best part of Shakespeare is found when he is treating the ordinary matters, not when striving hard transcendently."

最後に、言いたいのは、Blyth 先生から私が学んだように、英文学の研究は英語を母語とする研究者から学ぶところがやはり大きいものがあるということである。ロンドン大学で英文学を中心に広く研究され、後に禅宗の研究業績で学位を取られた Blyth 先生から、私は多く学ぶことができたのは幸いであったが、日本の英文学研

究がさらに発展するには日本語日本文学をよく知り、それと比較研究することによって独自な見解や研究成果を出すことができるのではないかと考えている。東京教育大学を母体にして創設された筑波大学の比較文化学類の構想はまさにこれをめざしたものと思っている。

(筑波大学名誉教授／茨城キリスト教大学教授)

うちの会社

オックスフォード大学出版局

オックスフォードで最初に本が出版されたのは1478年のことで、それはカクストンが英国に印刷技術を持ちこんだわずか2年後のことです。オックスフォード大学は、チャールズ一世により「すべての書籍」出版の権利を認可され、以来、大学出版局がそれを遂行しています。こうした長い歴史や伝統にもかかわらず、現在は非常に活発で現代的な学術出版局です。『オックスフォード英語大辞典』の出版社としてご存じの方が多いと思いますが、実は英語教材の出版でも一番手を走っています。その他、辞書や参考図書、理工医学、文学、社会・人文科学、教科書をはじめとする多くの分野でも活躍しています。また、OUP は非常に国際的な出版社で、毎年2,000を越える新刊を出版し、OUP で働く2000余人のスタッフは、半分以上が英国以外で国内出版をしている12の支店や40の関連事務所

に所属しています。

近年では、OED の電子化に代表されるように、電子出版部門の充実も著しく、情報伝達の分野でもリードしています。電子出版部門とともに OUP の革新的部分を代表するのが、雑誌部門です。大学出版局としては初めて商業出版社 (IRL) を吸収して以来、OUP は分子生物学・生命科学で世界を代表する雑誌出版局となりました。

日本支社、オックスフォード大学出版局(株)は、1957年に設立された日本における最初の外国出版社です。従って、今年度は40周年という記念すべき年となります。一年を通じ特別な催しを企画する予定でありますので皆様是非、ご参加下さい。

(オックスフォード大学出版局支配人

Steve Ziolkowski)

洋書輸入協会会報・広告掲載料等のご案内

全	頁(表紙④)(max. タテ20 cm×15 cm)(表紙 ④) 二色刷	18,000円
2分の1	頁(記事中)(max. タテ10 cm×15 cm)(4頁・5頁) 二色刷	10,000円
3分の1	頁(記事中)(max. タテ7 cm×15 cm)(4頁・5頁) 二色刷	6,000円
4分の1	頁(記事中)(max. タテ5 cm×15 cm)(4頁・5頁) 二色刷	4,000円

(完全版下の原稿を送付のこと)

総代理店案内	1行(25字)あたり	300円
その他の有料扱い	上記以外のもので、その内容が宣伝・広告の要素が強い記事については、寄稿者と相談のうえ有料扱いとすることがあります。料金はおおむね上記に準じます。	

※ご不明の点は事務所に問い合せください。

日本医学図書館協会のご紹介

文責：東邦大学医学部図書館 山口直比古

日本医学図書館協会は、昭和2年(1927)に、当時の官立医科大学5館によって創立され、本年(平成9年)に創立70周年を迎えます。設立の目的はそこそでに単独の図書館では利用者の文献等の要望に十分に答えられず、相互に協力することによって利用者の要望に応えて行こう、というものでした。この創立の理念は現在も変わらず、相互協力が日本医学図書館協会の活動の大きな柱となっています。しかしながら、現在ではもう少し幅広く活動の範囲を考えており、「医学・医療その他関連領域の図書館事業の振興並びに情報の管理、利用、生産、流通に関する調査、研究および開発を推進する」としております。

この目的を実現するために、大きく3つの事業を推進しております。

1. 情報資源の収集、保存、交換、補充、相互利用等の共同事業
 - ・重複雑誌交換
 - ・文献相互貸借(主として複写物による提供)
 - ・分担収集・分担保存の実施、(資料保存委員会)
2. 図書館員の育成および資質向上のための必要な研修会、研究会、研究助成などの事業
 - ・若手の図書館員を対象に基礎研修会の開催(年に一度)
 - ・中堅以上の図書館員を対象に医学図書館員研究会を開催(年に一度)
 - ・継続教育コースを設置
 - ・日本医学図書館協会賞、奨励賞を優秀な研究や業績に与える
 - ・研究助成、奨学金制度、ヨーロッパ研修奨学金制度により研究や調査を奨励している

3. 出版事業

- ・機関誌「医学図書館」の発行(季刊)
- ・「現行医学雑誌所在目録」の発行(年刊)
- ・「医学洋書総合目録」の発行(季刊および年刊累積版)
- ・「MeSH 日本語版」の出版(隔年)
- ・その他、必要に応じて単行書を出版している

これらの事業は相互に密接に関わり合っており、全体として日本医学図書館協会の活動を支えています。現在113館の医学・歯学等の図書館が加盟しており、最近では病院図書室の加盟が増加する傾向にあります。

今後の活動は、日々に変化する情報環境に応じて、利用者の要望も変化しており、それらに適確に答えるべく、図書館員の教育に力を入れてゆくと同時に、益々重要になりつつある相互協力、特に資料の分担収集・分担保存に力を入れていきたいと考えております。

同じ医学・医療情報に携わるものとして、洋書輸入協会とも今後益々協力関係を深め、ともに日本の医学・医療の発展に貢献してまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

注：日本医学図書館協会へのご連絡、ご質問等は、下記協会中央事務局へお願い致します。(編集委員会)

〒113 文京区弥生2-4-16 学会センタービル5階

Tel: (03) 3815-1942 Fax: (03) 3815-1608

局長 津野潤三 局員 上野いち子氏

ホームページ <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jmla/>

英語辞書の歴史—ジョンソン・ウェブスター・OED—(10)

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆「辞書戦争」とウェブスター辞書改版の歴史(2)

先月号で、ウスターがジョンソン以降最高の辞書と評価された『英語大辞典』を1860年に上梓したところまで述べたが、ウェブスター側はこの前年の1859年に、それまで編集の中心にいたグッドリッチ教授がエール大学のノア・ポーター教授を編集主任に指名して、大々的な新訂版の準備にとりかかった。ポーター教授は、最新の言語学の知識をこの辞書に集大成するために、語源の徹底的な検討をゲルマン語の権威者マーン博士(Dr. C. A. F. Mahn)に依頼した。さらに、各分野の大学教授30名に大学を休職させて編集の専任者とし、また作家・文筆家・新聞雑誌編集者など数十名の協力を得て編纂を進めた。その結果1864年に出版されたのが“An American Dictionary of the English Language. Royal Quarto Edition. Unabridged”で、通常“Webster-Mahn Edition”と呼ばれているものであった。この優れた辞書の誕生で、ウスターの死亡が重なったこともあって、「辞書戦争」は事実上ウェブスターの勝利ということで決着した。この戦争で勝利を獲得するまでに出版社が払った努力は大変なもので、メリアム社が出版元でなかったらウェブスターの今日の王座はなかったのではないかとされている。これに反して、ウスターの辞書はウェブスターを凌駕する質の高い内容をもちながら、出版社が改訂版の発行にそれほど積極的ではなかったというところに、両者の明暗を分ける大きな要因があったと見られている。

この改訂でウェブスター辞書は収録語数が114,000語に増加し、またノア・ウェブスターが創出し継承してきた特徴のほとんどが捨てられた。そして、この版に限らなかったが、改訂の度ごとにウスターの長所を取り込み続けたことによって、最終的にウスターを超えることができたのであった。

さて、こうして独走体制に入ったウェブスターであるが、辞書は改訂を重ねることによってその恒常的命脈を保つことができる、というメリアム社の方針によってそれから改訂を重ね、後発の『オックスフォード英語大辞典』と並び英語辞書の双壁となった。

その改訂の経過をたどってみると、エール大学学長の重席にあったノア・ポーターは退任して辞書の編纂に専念することになり、1890年に前版を大きく増補して見出し語175,000の「国際版」“Webster's International Dictionary of the English Language”を上梓し、次いで1909年に大改訂を行い“Webster's New International Dictionary of the English Language”を発行した。これが今日まで継続している「新国際版辞書」の最初のものであった。続いて1934年には『ウェブスター国際辞典第2版』が60万語という英語辞書最大の見出し語を持つ辞書として生まれ、さらに現在の版である『新国際辞典第3版』が1961年に刊行された。

第2版は、記憶されている方もおられると思うが、束が5インチ(約12.7センチ)という途方もない厚さで、これをとじる製本機械はなくすべて手作業による製本であった。第3版においては、労働コストを原価に吸収することが不可能であった関係で、新しい編集者のゴーズ(Philip Bacock Gove 1902-72)は内容を徹底的に改訂して見出し語を45万語に圧縮し、束を4インチ(約10.2センチ)の厚さにして機械製本を可能にした。もちろんこの改訂は製本事情だけに起因したものではなく、「その時代の言語の忠実なる記述」という指針に沿って編集したものであった。第3版は、第2版から百科事典的語彙・廃語(1755年以前)・稀語を中心に25万語を削減して新たに10万語の新語を加えた。この第3版の思い切った改訂は、出版された初期の段階で痛烈な批判をこうむり、米語の質を落としたとまで非難された。ちなみに、“American Heritage Dictionary”は同社社長がこの第3版に強く反発したことが遠因となって制作された辞書であったという。

ともあれ、当初そういう批判があったものの、この第3版は新時代に適合する辞書として改訂されたものであり、OEDと並んで英語辞書最高の地位を保ちつづけていることは異論がないところである。

〔参照図書：佐々木達・木原研三編『英語学人名辞典』/ランドウ著・小島義郎他訳『辞書学のすべて』/永島大典『英米の辞書—歴史と現状』/小島義郎『英語辞書物語』

Cooper Publishing Group(USA)

体育学関係専門出版社

新興の出版社ではありませんが、スポーツ医学での最新の情報を包括的に提供する研究論文「Perspectives in Exercise Science and Sports Medicine, 既刊10巻」(継続出版物)を始めとして、教育学・コーチ学などの分野の外、全米オリンピック委員会(United States Olympic Committee/USOC)監修による、子供の親やスポーツコーチの為のユニークな競技種目指導書「The U.S.O.C Sports Education Series」が1996年より順次刊行されています。単なる技術指導書としてだけでなく、子供がスポーツやスポーツ組織に参加し、そこで最大限力を発揮し、能力を引き出せるように、又指導を通じて、子供が組織の帰属性や競争心を無理なく感じ取ること、自分自身の評価をきちんとすることが学び取れ、手助け出来るように配慮がなされています。

その他、「Coaching Youth Sports Series」(青少年育成コーチ学シリーズ)は、Youth Baseball, Youth Basketball, Youth Football, Youth Soccer, Youth Softball(各¥5,400)などの各種競技指導書が1996年より順次刊行されております。図書館や研究室の必備図書としては是非御揃えください。

◆ 運動科学及びスポーツ医学の展望シリーズ

各¥8,100

Perspectives in Exercise Science and Sports Medicine Series

Vol.1:Prolonged Exercise. (1988)

Vol.2:Youth, Exercise, and Sports. (1989)

Vol.3:Fluid Homeostasis. (1990)

Vol.4:Ergogenics-Enhancement of Performance in Exercise and Sport. (1991)

Vol.5:Energy Metabolism in Exercise and Sport. (1992)

Vol.6:Exercise, Heat, and Thermoregulation. (1993)

Vol.7:Physiology and Nutrition for Competitive Sport. (1994)

Vol.8:Exercise in Older Adults. (1995)

Vol.9:Exercise and the Female-A Life Span Approach. (1996)

Vol.10:Recent Advances in the Science and Medicine of Sport. (1997)

以後、毎年1冊刊行予定

◆ 全米オリンピック委員会スポーツ教育シリーズ

各¥3,240

United States Olympic Committee Sports Education Series

既刊:Soccer, Gymnastics, Ice Hockey, Badminton, Wrestling, Weightlifting 以後、各種競技続刊

詳しいことは弊社までお問い合わせください。カタログを差し上げます。

輸入総代理店：日本出版貿易株式会社

〒101 東京都千代田区猿樂町1-2-1 TEL 03-3292-3753 FAX 03-3292-0410 e-mail: jpt@po.iijnet.or.jp

1997年 8月

通巻第363号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本綜合印刷株式会社